

引通しタイプバンドの装着方法

このバンドはおお客様がご自身で簡単にバンドを交換できる機構を持っています。説明書をよくお読みになって交換をしてください。

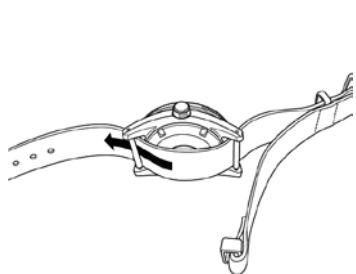
バンドについて

バンドは直接肌に触れ、汗やほこりで汚れます。そのため、お手入れが悪いとバンドが早く傷んだり、肌のかぶれ・そでの汚れなどの原因になります。長くお使いになるためには、こまめなお手入れが必要です。

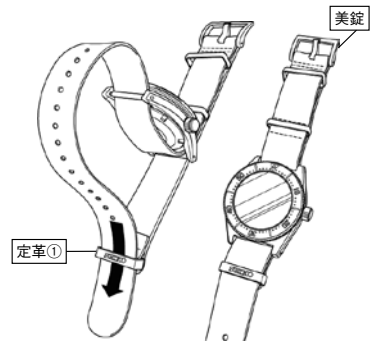
⚠ 注意

- 布製バンドのお手入れについて
 - 糸を編み込んでいる構造上、皮脂や汚れなどが付着しやすい性質があります。
 - 本製品への引っかかりによる製品のほつれ、破損などにご注意ください。
 - 汗や雨で製品が濡った際、摩擦により色落ちし、他の衣料に色が移ることがありますのでご注意ください。
 - 衣類の素材との摩擦により、静電気が起こることがありますのでご注意ください。
 - 皮脂や汚れなどが付着した場合には、すぐに乾いた布などで軽く拭き取ってください。
 - 乾燥させる際は、風通しの良い場所で陰干ししてください。
 - 長時間の水洗いにより、風合いが変わることがあります。
 - タイピングなどで海で使用された際には十分に塩抜きを行ってください。
 - 直射日光に当たる場所に放置すると、変色する可能性がありますのでご注意ください。

かぶれやアレルギーについて	バンドによるかぶれは、金属や皮革が原因となるアレルギー反応や、汚れ、もしくはバンドとのすれなどの不快感が原因となる場合など、いろいろな発生原因があります。
バンドサイズのためについて	バンドは多少余裕をもたせ、通気性をよくしてご使用ください。附計をつけた状態で、指一本入る程度が適当です。

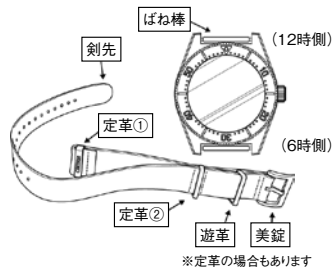


時計本体の裏ぶたに沿って6時側のケースとばね棒の間に裏面からバンドを通します。



6時側の定革①にバンドの剣先を通します。ケースにバンドが取り付けられ、腕に装着できる状態になります。時計本体を腕に乗せ、バンドの剣先を美錠に通し適切な長さになるようにとめてください。

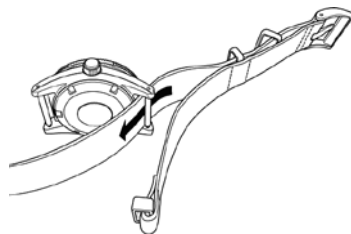
- ・バンドを取り外す
ケースからバンドを外してください。



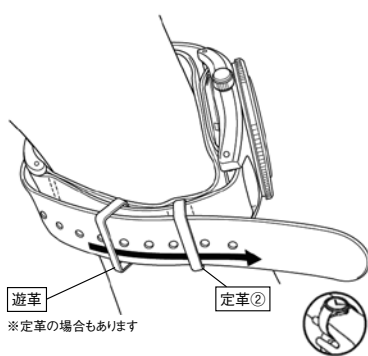
※定革の場合もあります

- ・新しいバンドを取り付ける
ケースにばね棒がしっかり取り付けられていることを確認してください。

バンドに美錠、定革がしっかり固定され取り付けられていることを確認してください。

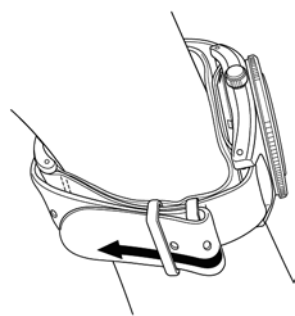


図のように、美錠が12時側になる様にセットし、12時側のケースとばね棒の間に上面からバンドの剣先を通します。



※定革の場合もあります

剣先をそのまま遊革、定革②の2か所に通します。時計を腕につけた状態で指が1本入る程度が目安です。



バンドが長い場合は、剣先を図のように折り返し、固定してください。